

# 令和4年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市政結和
議員名	金濱元一・我妻静夫・岡田健一・早川昇三・南川達彦・鈴木和彦
調査実施年月日	令和4年7月5日
調査先 自治体名等	佐賀県佐賀市
調査項目	わいわい！！コンテナプロジェクトについて
調査目的	中心市街地活性化について
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口：231,648人 行政面積：431.82km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容 佐賀市では、中心市街地活性化事業として取り組まれている「わいわい！！コンテナプロジェクト」について調査した。</p> <p>佐賀市の中心市街地は、人口減少や郊外店の進出や大型ショッピングセンターの開業により来街者が減少し、店主の高齢化や店舗の老朽化により閉店する店舗が増加し、空洞化も進んできた。中心市街地が抱える課題への対策として、中心市街地活性化基本計画を作成。計画策定の過程において「街なかに人が集まれるような公園がない」という意見を吸い上げ、中心市街地のエリアとしての価値の向上を目指し、わいわいコンテナプロジェクトがスタートした。</p> <p>初年度は8か月間の社会実証実験として事業が行われた。運営は、空き店舗の活用やイベント運営などのまちづくりに関わっていたNPO法人ユマニテさがに委託。実証を行う土地は、市が地権者から借り上げ、コンテナは地域の建設業者の協力で調達。</p> <p>8ヶ月間で、14,863人(62人/日)の利用があり、利用者アンケートでは、3割の人が、いままで街なかに来たことがなかったという回答があり、中心市街地に人を集めるといった目的は達成したと評価されている。</p> <p>2年目からは、それまでの場所の借り上げが出来なくなったため、新たな場所で同様の事業を行ってきている。成果として、年間の施設利用者が50,000人を超えており、中心市街地内の近隣の空き店舗や空き地での新規出店が増えてきていることや、多世代の来街者が増えているとのことであった。</p> <p>課題としては、わいわいコンテナからの回遊性をもっと高めることや近隣商店の事業への参画が挙げられていた。</p>
感想(まとめ) 本市へ生かせること 等	<p>本市においても中心市街地の活性化は急務の課題であり、中央町地区では、空き店舗や店舗の老朽化は顕著であり、今回調査した、わいわいコンテナプロジェクトのような仕掛けは、建築物を建てるという大きな投資は必要なく、商業とは違う切り口で人が集まる場所を作り出しているという点で、大変効果的な施策であると考え。こうした取り組みには、NPO法人ユマニテさがのような、まちづくりを担ってきた団体の存在が欠かせず、本市での導入を考えた場合、施設の運営を担える団体の掘り起こしや育成を行う必要がある。</p> <p>中心市街地の活性化は行政だけでできるものではなく、地域と一体となって取り組んでいくべき課題であり、今回調査したわいわいコンテナプロジェクトは大変参考となる事例であった。</p>